

大学院入試経験談

2017 院進 A クラス 吳孟奇

私は、2015 年に中国の一般大学を卒業し、2016 年 4 月に亜細亜友之会外語学院に入学しました。当初、日本の進学事情を全く知らず、「みんなの日本語」の初級を学んだだけで、日本語能力がそれほど良くありませんでした。入学後、私は大まかな進学事情を知り、自分の日本語レベルの足りなさを痛感しました。せっかく留学で日本へ来られ、何か実績を残したいと思い、私は、2 か月の勉強を通して日本語能力テスト N2 合格という目標を設定しました。5 月から日本語の勉強に真剣に取り組み始めました。N2 の文法から始め、できるだけ多くの単語を覚え、そして毎日就寝の前、必ず 30 分ほど能力テストの問題集の音声聞くようにしていました。努力が報われ、私は N2 に合格することができ、それは当初にしては考えられないことです。試験があったその週の金曜日は、学校では「みんなの日本語」の下の勉強が終わったばかりの頃でした。それまでの勉強を通して、努力すればするほど時間の節約につながることを知りました。N2 合格後、私は N1 級テストの勉強を始めました。試験の前、あまり自信がありませんでした。普段、大量の読解の練習をこなし、試験のとき、問題をよく読み、落ち着いて回答をした結果、読解で 55 点を取得し、試験にも無事合格できました。日本語能力試験の勉強を通して、私は自らの学習能力を再認識することができました。

資格勉強の後、私は進学勉強への取り組みを始めました。各大学に関する情報をこまめに収集し、私は目標大学を 3 か所にしぼりました。入学試験の準備を入念に行い、幸い一橋大学、大阪大学、及び神戸大学に合格しました。目標大学の設定につきまして、個人的に重要な点が 2 点あります。一つ目は、志望大学の全体の学術研究レベルの評価です。二つ目は、過去入学者数の割合です。場合によっては、後者のほうがより重要な判断材料になります。私が選んだ経済学科の入試は、筆記試験、面接及び研究計画書の 3 種類に分かれます。筆記試験では、計算の問題が多く出題され、分かる範囲内の問題をできる限り正解を出せるように努力を重ねるべきです。面接では、一般常識と研究計画書に関する質問が多かったです。アドバイスとしては、質問に対して堂々と答えをし、面接官に良い印象を与えるように努めましょう。

振り返れば、日本語能力試験を中心に自分の学習計画を組んでいました。日本語勉強の傍ら、進学試験の準備もやりました。一生懸命努力を重ねれば、必ず成果がついてきます。皆さんが時間の無駄をせず、良い成績が取れるように祈っています。

末筆ながら、出願において、大澤先生並びに宮原先生からのご指導及びご尽力に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。